



矮性さやいんげんの上手な栽培法

二主要品種と高収益栽培のポイント二

雪印種苗(株) 千葉研究農場

近 江 公

1 はじめに

さやいんげんは、比較的短期間で温度管理さえ守れば簡単に栽培することができる手軽な作物ですが、収穫から選別および箱詰め作業に多大な労力（一般に矮性品種での作付面積の規模は1人当たり2 a程度）を要し、そのため、各産地においては生産者の高齢化に伴い、栽培面積は減少傾向にあります。

反面、市場単価は比較的良好で、高収益性の作物（粗収益で100～200万円/10 a）であり、小面積での栽培品目としてはまだまだ魅力的な作物の1つです。

2 品種の選定

丸莢か平莢か（市場動向の確認）

東西交流が常識となった今日にあって、古くからの地域ごとの嗜好性として、さやいんげんについては関東の平莢（厳密には凹凸莢）と関西の丸莢が現在でも残っており、規格が全国統一化されてきている野菜の中にあつて、数少ない貴重な野菜の1つとなっています。したがって、各産地に

おける品種の選定は、まず出荷先市場の嗜好に合わせる必要があります。その上で、優良な品種を選抜していくことが何より重要となります。

当社では、丸莢品種を中心にこれまで品種を発表してまいりましたが、その中でも、現在ベストクロープキセラを中心に特に関西・中京市場で大好評いただいております。当社品種の主要特性については以下のとおりです（表1）。

3 儲かるさやいんげんづくり

野菜が量から質の時代を迎えて、各産地間競争もますます激化しておりますが、さやいんげんにおいても同様に高い水準の品質が求められ、またそれに応えられる産地が高い評価を得て、高収益に結びつけています。先にも述べたとおり、さやいんげんは収穫から出荷に手間と時間を要する作物ですから、より高い収益性を考えた栽培管理が極めて重要となってきます。同じ手間と時間をかけて出荷するのであれば、量的に限界があるわけですから、如何にA品（優品）の割合を増やし収益に結びつけるかが最大のポイントとなってきます。

表1 矮性さやいんげんの主要特性 (雪印品種)

品種名	市場商品名	早晚性	適応作型				収穫パターン		主な利用先
			ハウス加温	ハウス無加温	露地(普通)	露地(抑制)	短期収穫	長期収穫	
まゆみ		早生	×	△	○	○	◎	×	一般、家庭用
さやかざり	スノークロップ	早生	△	△	○	△	◎	×	一般、業務用
リンダ		中早生	×	△	○	○	◎	×	家庭用
ネリナ	スノークロップ	中生	○	○	○	○	○	○	一般、業務用
キセラ	ベストクロープ	中生	○	○	○	○	○	◎	一般、業務用
サマーキセラ	ベストクロープ	中生	×	△	○	◎ (特に早播き)	◎	△	一般、業務用

◎：最適、特に優れる ○：適する、優れる △：やや適する、やや優れる ×：適さない、劣る

4 高収益栽培のポイント

①いんげんは水で作る。

さやいんげんは水で作るといわれるほど、水は極めて重要な要因となります。特に、開花期以降の乾燥は大敵です。草勢を強く維持するためにもできるだけ灌水施設は設置したいものです。ただし、さやいんげんの根は細根の活力が

極めて重要で、過度の灌水は根腐れを起こす最大の原因となり、長時間の灌水は大変危険です。土壌水分を一定に保てるよう細めな灌水が必要です。

②株間は広く、受光性を充分確保する。

株間が狭く混み合っていると、見た目は生育旺盛に見えることがありますが、決して草勢が強くなっているわけではなく、やや徒長気味となって、茎は細く、葉もうすくなります。特に直播の場合は1株2粒播きのままで生育させると、その典型となります。株間を狭めたり、2本立ちにすれば、確かに単位面積当たりの総収量は増えますが、当然曲がり莢等のB品の割合も増え、結果として手間ばかりかかり、収益性の向上に結びつかない、いわゆる無駄作業が増える原因となります。草勢を長く維持するためにも、株を大きく強くするためには充分光を当て、側枝の発生を促す必要があります。

必ず1株1本立てとして、適正な株間（通常24～35 cm程度）を確保し、1株1株を大きくすることが重要です。

③矮性品種にも支柱立ては必要。

本来矮性（つるなし）品種であれば、わざわざ支柱を立てなくても倒れる心配は少ないわけですが、当然収穫期に入ってからには莢を探しながら収穫しているうちに、結果として株元を回してしまうことになり、支柱無しでは収穫期以降倒伏する危険性が高くなります。倒伏すると曲がりや泥はね、また色むら莢等、品質は急激に劣化するので、必ず支柱立てをおこなうようにします。収穫間際になってからの支柱立ては株が大きく広がって



写真1 キセラのハウス加温栽培風景

り、ひも張りがやりにくいので、できるだけ初期生育期間中に張っておきます。

④穫り残しは草勢を弱らせる最大の要因。

収穫を始めて最初のころは、比較的品質良好な莢が着きますが、収穫ピークを過ぎたころから莢はだんだん品質が悪くなる傾向があります。いわゆる成り疲れによる草勢の衰えからくる老化現象の1つですが、収量を確保するためには収穫ピーク時の収量を上げるとともに、収穫期間をできるだけ長くする必要があります。特に、作業性を考えた場合、ピークが急激にくるより、ややなだらかに長く収穫できるほうが効率的です。そのためには、草勢を弱らせないような栽培管理が重要となります。

先にも述べたとおり、灌水も極めて重要ですし、また追肥、摘葉等で株を若がえらす必要もあります。さらに重要なのは、収穫時の作業として、必ず穫り遅れや穫り残しの莢が出ないように収穫の徹底が極めて重要となります。一般に莢への養分の転流は、新しい莢より古い莢の方へ優先的に流れる傾向があり、収穫しない莢があると、なかなか新しい花芽が分化しにくくなり、結果として株の老化を早めることとなります。したがって、仮に出荷するに値しない不良な莢であっても、必ず株から穫り、少しでも草勢が回復しやすくしてあげることが重要です。

⑤選別の徹底が市場価格に反映する。

畑においてりっぱなさいんげんが穫れても、規格分けや選別が悪いと、市場価格に大きく影響してきます。特にいんげんの場合、細かく規格設



写真2 ネリナの出荷姿（2kg詰）

定されており、それぞれの規格に合わせ不揃いのないように出荷しなければなりません。一般的には2kgダンボールのばら詰めが主流となっていますが、表面上見た目を良くしても、中身がばらついては、その後の信用を大きく失うことになるので、絶対に避けなければなりません。選別の徹底は、そのまま産地の評価につながります。良い品物を出荷していれば、必ず、市場から高い信用を得ることができ、高収益につながっていきます。

5 矮性いんげん産地の将来展望

(主要産地の今後への取り組み)

さやいんげんは比較的価格が良く、市場サイドからも要望の強い品目であるにもかかわらず、国内での生産量は年々減少しているのが実態です。特に、主要産地においては生産者の高齢化がますます進み、栽培する人が減少していく中で生産量を維持確保していくことが、極めて困難な状況となっており、5年後、10年後の産地形成に対し悲観的な産地が多い中で、一部の産地では将来への危機感を抱き、今からやるべき対策を既に検討しているところもあり、さまざまな動きが見受けられます。

品種特性に対する要望を含め、今後の産地形成の維持、拡大に向けたいくつかの動きについてご紹介いたします。

①自動選別機械を導入して選別、箱詰め作業を軽減。

生産者は収穫したさやいんげんをコンテナ等で集荷場へ持ち込み、各生産者ごとに自動選別機械にかけ、規格ごとの数量をチェックします。生産者は選別、箱詰め作業をおこなわないですむ分、より収穫量を増やすことができます。

②一斉収穫をおこなって収穫労力を軽減。

畑で毎日収穫する慣行の方法をやめ、ある程度莢が揃った段階で、畑から株ごと抜き、一斉に収穫する方法です。収穫作業は軽減されますが、その後の選別、箱詰めは従来どおり手間がかかります。

また、市場からも莢の品質のばらつきが問題視されており、現行の品種の中での定着は極めて難しい状況です。



写真3 自動選別機による作業風景

③つる性品種を導入して収穫作業を軽減。

矮性品種の産地においては、収穫がすべて腰を曲げてかがんだ状態となり、生産者からは、より楽な姿勢で収穫できる草丈の高い品種の要望もあり、つる性の中で比較的側枝の発生が強い半つる性の品種が導入されてきています。ただし、露地栽培では風などの影響を受けやすいため、主にハウス栽培で使われています。また、莢の形質が平莢(凹凸莢)のため出荷先が限定されています。

④ジベレリンを使って収穫作業を軽減。

③同様、収穫時の労力軽減とまた草勢確保の上で収量増をねらって、ジベレリン処理(莖葉処理)をおこないます。処理時期や濃度等、条件によって生育が異なってくるため、慎重に検討する必要があります。

6 おわりに

市場では国内生産が減少している中で、一部中近東、中南米等の海外から輸入し数量確保にあたっているところもあり、今後、ますますそのウエイトが増えていくことが予想されます。これは、海外のほうが、安く手に入るからといった理由より、基本的には国内でまかなえない、不足分を補うという考えから始まっており、逆に言えば、国内の生産がもっと増えていけば、海外のウエイトが減ることを意味しています。

当社としても、生産者の方にとってさやいんげんが極めて魅力ある野菜の1つであるよう、品種開発を中心に今後ともお役に立てる技術、情報を含め取り組んでまいります。